

豊福早生(とよふくわせ)

登録番号: 4423号	来歴: 「大浦早生」に「パーソンブラウン」を交配して得られた珠心胚実生
登録年月日: 平成7年3月23日	
登録者: 熊本県(熊本県熊本市水前寺町6丁目18番1号)	育成地: 熊本県下益城郡松橋町豊福2566(熊本県農業研究センター果樹研究所)
育成者: 磯部暁 藤田賢輔 重岡 開 稲葉一男 早上三男 松田明治	

特性

■栽培特性

樹姿は未結果期間ではやや直立性であるが、結果期にはいと次第に開き、開張性の樹姿となる。樹勢は中程度であるが、極早生温州としては強い方に属し、未結果期間の枝梢伸長は比較的旺盛で、新梢長、節間長とも「大浦早生」に比べ長く、結果期以降も「興津早生」程度の樹勢となる。

葉は披針形で、葉身、葉幅長ともに「宮本早生」、「大浦早生」より長く、葉面積は大きい。また1~2年生の若木や高接ぎ2年目の春枝程度までは2cm程度のとげを発生するが、樹齢の経過にともない次第に少なくなる。

結実性は、生育初期段階では枝梢の成長が旺盛なため、結実始めは他の極早生温州より1年程遅れる傾向にあるが、結実期に至ってからの着花(果)状態は良好で連年結果性がある。花器の形態や生理落果等については、他の極早生温州と特に違いは認められない。

■果実特性

果実の大きさは「宮本早生」と同程度であり玉揃いは良い。果形は扁円形、果形指数135程度となり、「宮本早生」、「大浦早生」に比べ果形指数はやや小さい。果面は「宮本早生」に比べ油胞が密に分布し、平坦な油胞が多いため平滑である。果実の着色は9月上旬頃より始まり10月上旬頃に完全着色し、「宮本早生」と同様であるが、完着時の果皮色は「宮本早生」以上に濃色である。果皮の厚さ、じょうのう膜は「大浦早生」と同程度であり、「宮本早生」に比べやや厚い傾向にあるが、果肉は柔軟である。

果汁の糖度は比較的高くなりやすく、適正な条件であれば9月下旬頃から10月上旬ころまでには11度台に達する。クエン酸は比較的低く、9月下旬頃より食味は良好で、10月上旬頃には0.8~0.9%程度となり、「宮本早生」に比べ減酸は早い。温暖な地域では9月下旬から採取出荷が可能であるが、全体的には10月上旬頃からの採取出荷が主体となる。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

そうか病には感受性、かいよう病には抵抗性で、その他の病虫害防除は早生温州の慣行防除体系に準じて行う。

枝梢の伸長が旺盛のため樹冠拡大は容易だが、結果始めがやや遅れることから、枝梢の誘引や摘芯等により落ち着いた枝梢の確保を図る。結果期以降は果実品質向上を図るため、生理落果が終了する頃よりシートマルチを行うが、被覆前には内成り・裾成り果を中心に摘果を行い、果実の初期肥大を促進させる。

■地域適応性

本種は早熟性の品種であることから比較的広い範囲での栽培に適するものと見られるが、極早生温州として早期出荷の特性を発揮するためには、温暖な地域に植栽することが必要である。また糖度を高め、減酸を早くするためには、土層は比較的深く、排水の良い日当たり良好な南面または東南面の傾斜地での栽培が望ましい。(藤田賢輔)